

ドイツ語コンテスト Hallo Deutschland! に出場して

佐藤 勇志

私は“Hallo Deutschland!”という、Goethe Institutが開催しているドイツ語のコンテストに出場しました。Goethe Institutはドイツの文化教育機関であり、今回のコンテストのお題は「小学生にドイツ／ドイツ語に興味を持ってもらうためにはどうすればよいか？ 45分間のワークショップを考えよ」というものでした。全国の学生がアイデアを競い合い、1次予選（企画書提出）、2次予選（審査員にプレゼンテーション）、決勝（小学生にワークショップを行う）といった流れでコンテストは進められました。2人1組での募集だったため、私は全学共通カリキュラムのドイツ語の授業で一緒だった後輩を誘い「ハイテク機材を用いた未来型ワークショップ」というアイデアを考えました。結果、予選を勝ち進み、最終的には3位に入賞することができました。

そもそも私がドイツ語に興味を持ったきっかけは、3年次にドイツにある企業でインターンをしたことからです。社内の公用語は英語でしたが、現地の文化や人々をもっと知りたいという思いから、仕事の合間をぬって、積極的にドイツ語を勉強しました。半年間の滞在でしたが、日常生活には困らないほどの語学力が身に付きました。しかし、帰国後は再び日本語中心の生活に戻ってしまいます。学生なので語学学校に通うお金もなく、どうにか出費せずにドイツ語のレベルを維持・向上させる方法を模索していました。答えは意外にも簡単に「全カリのドイツ

語の授業を履修すること」と「ドイツ語のコンテストに出場すること」でした。しかも、Goethe Institutが開催するコンテストの入賞者にはドイツ旅行、語学学校無料招待券などの賞品もありました。

2人でさっそく1次予選の準備にかかりました。このラウンドではA4用紙5枚で日本語の企画書を作成しなければならず、ここで落ちてしまうとドイツ語の勉強ならなくなってしまうため、一番必死に取り組みました。作成にあたり次の3点を強く意識しました。驚きある教材でドイツの文化を知ってもらうこと、異文化コミュニケーションの楽しさを体験してもらうこと、そして、子供たちの強く印象に残る授業を展開することです。

そこで考えたのが、3部構成の授業です。1部では、プロジェクターとスクリーンを教室に持ち込んで、ドイツに行って感じたことを実際に撮った写真とともに紹介。テーマはサッカー、音楽、食文化などでした。2部は、簡単なドイツ語を学ぶセッション。そして3部は、学んだばかりのドイツ語でドイツ在住の友人とテレビ電話で実際に話してもらうことでした。第3部が今回の私たちの提案のハイライトでした。これらを丁寧にまとめて提出した結果、1次予選は難なく通過することができました。

続いての2次予選は、Goethe Institut東京本部にて企画のプレゼンをする、というものでした。プレゼンは日本語で行いましたが、自己紹介、志望理由、

プレゼンの質疑応答等はすべてドイツ語で受け答えしなければなりません。私たちは、熱意と企画の内容をわかりやすく審査員に伝えることを意識しました。結果、このラウンドも無事に通過することができました。決勝に進んだチームは広島大学、東京外国語大学、そして私たちの3チームとのことでした。そして2011年11月29日、立教池袋小学校にて、実際にこれまで提案してきたワークショップを行いました。いよいよ決勝戦です。

当日は大学でスクリーンとプロジェクターを借り、会場となる教室へ向かいました。緊張しつつチャイムの音を待っていると、子供たちが元気良く教室に飛び込んで来ました。授業を始めてみると彼らはよく話を聞いてくれて、スムーズに授業を進めることができました。第1部では特にブンデスリーガでの写真に興味を示してくれ、第2部では少ない時間のなか必死に言葉を学んでくれました。そして第3部のスカイプを用いてドイツ人と話すセッションでは、「これ現地と生で繋がってるの？すげー！」と想像していた以上に喜んでくれていました。代表者の生徒をカメラの前に立たせ、実際に学んだドイツ語を使って会話をさせてみました。緊張もあったせいかカタコトのドイツ語ではありましたが、しっかりと意味は伝わり、会話が成り立ったことにクラス中で大盛り上がりでした。そしてあっという間に時間が流れ、ドイツの友人にはみんな「チューズ！」と挨拶をして別れました。最後は子供たちに「外国語を学ぶことは自身の世界観を広げることにつながるんだよ！楽しかった？」と聞くと「Ja！（ドイツ語で「はい」）」と元気な返事をしてくれました。きっと子供たちの印象に残る授業ができたと感じています。

私たちは優勝を目指していたので3位という結果には満足しきれていません。しかし、コンテストに出場し、多くの学びの機会を得られたことにはとても満足しています。また、3位の副賞としてGoethe Institutの授業を受けられることにもなったので、今後はさらに意欲的に学んでいきたいと思えます。最後になりましたが、この場を借りてコンテストの運営に携わった方々、機材の貸出にご協力頂いた方々、そして全カリのドイツ語の授業でお世話になったMuelenz先生に御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さとう たかし
(本学経営学部国際経営学科4年次)